

東京DMAT通信



～東京DMAT 隊員と福祉保健局のホットライン～

第4号 2014. 12. 25
東京DMAT発足10周年記念号

◎ 東京DMAT発足10周年にあたって ☆ 東京DMAT運営協議会長 山口 芳裕 (杏林大学救急医学教授)

東京DMATは、この10年間、東京都が育ててきた都民のための組織です。また、東京消防庁と密接な連携を有する、日本で唯一の、世界にもまれに見る消防の指揮下で活動する1,087名にも及ぶ医療チームです。発足以来、新潟県中越地震、東日本大震災などの自然災害や、大規模交通事故等の都市型災害、さらには渋谷区温泉施設爆発事故、秋葉原無差別殺傷事件といった特異な災害現場など、600件を超える出場要請に応え、実績を挙げてきました。

これまで東京DMATは、災害が起こったときにそれに対処する、いわば受動的なクライシスマネジメントという立場で活動してきました。しかし、これからは2020年の東京オリンピックなどを踏まえて、予防的に、万一何かが起こったときに被害をできるだけ少なくするように、むしろ能動的に災害にかかわっていく姿勢が必要だろうと考えています。

また、東京DMATには、消防機関以外にもさまざまなステークホルダーが存在します。これまでは、それぞれの意見をお聞きしてそのニーズに応える余裕はありませんでした。しかし、10年を経た今、さまざまな関係機関のご意見やご要望、ニーズに少しずつ応えていくことが必要だと思えます。その過程で課題を一つ一つ丁寧に整理し、対応能力を高めていけるように、東京DMATはこれからもさらに進化していきたいと思えます。

東京DMATは、これまで国内では最もしっかりと行政に面倒をみていただきながら、また東京消防庁に全面的にご協力いただきながら育てていただきました。これからは、その連携をさらに強固なものにするとともに、その他のさまざまな関連機関とも連携を模索しその強化を図って、さらに都民のお役に立てるように頑張っていきたいと思えます。今後とも、どうぞご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

☆ 東京都福祉保健局医療政策部長 小林 幸男

全国に先駆けて平成16年に発足した東京DMATは、現在、25の東京DMAT指定病院、隊員数1,087名の体制にまで拡充し、これまで大きな実績を挙げてきました。本年度10年を迎えた東京DMATですが、これまで、被災現場の最前線で救命処置等にあたってこられた隊員の皆さま及び運営に携わっていただいた先生方に深く感謝申し上げます。

さて、東京DMATの活動の実績が上がるにつれ、都民の知名度と期待はますます高まっているといえます。このため、福祉保健局では、10年を迎えた東京DMATの活動を、更に幅広く都民に知っていただくことが重要と考え、今年度、東京DMATをメインとした「救急の日シンポジウム」を開催しました。また、マスメディアとタイアップし、7月29日から8月3日まで、6日間連続で東京DMATの特集記事(朝日新聞「患者を生きる」)を掲載させていただきました。シンポジウム及び取材にご協力いただいた隊員の皆さまには重ねて感謝申し上げます。

成熟期を迎えた東京DMATは、これまでの活動実績を踏まえ、さらに首都直下地震の対応やNBC災害の対応なども視野に入れ、活動を検証・検討し、一層の充実と発展を図っていく必要があるといえます。都としても精一杯努力いたしますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

☆ 東京DMAT関係功労者に対する東京都知事感謝状の贈呈

9月10日(水)、多年にわたり東京DMAT指定病院として東京都の救急災害医療行政に積極的に参加し、災害現場で都民を含む多数の人命の安全確保に多大な貢献をされた国立病院機構災害医療センター、日本医科大学付属病院、杏林大学医学部付属病院、帝京大学医学部付属病院の4病院に対し、東京都知事感謝状が贈呈されました。



国立病院機構災害医療センター



日本医科大学付属病院



杏林大学医学部付属病院



帝京大学医学部付属病院

☆ 救急の日シンポジウム

9月10日(水)、都庁第一本庁舎5階大会議場において、「東京都の災害医療の更なる充実に向けて～東京DMAT創設後10年の取り組みと今後～」をテーマにシンポジウムが開催されました。東京DMAT運営協議会会長の山口芳裕先生による基調講演に続き、パネルディスカッションが行われ、東邦大学医療センター大森病院の吉原克則先生、国立病院機構災害医療センターの小井土雄一先生、日本医科大学付属病院の布施明先生、帝京大学医学部付属病院の内田靖之先生、東京医科大学病院の川原千香子看護師長、東京消防庁警防部の木下修副参事、東京消防庁救急部の緒方毅副参事の7名のパネラーが「東京DMAT隊員の教育・技能維持」「地域災害医療コーディネーターと東京DMATとの連携」「首都直下地震における東京DMATの活動」などについて発表があり、その後ディスカッションが行われました。最後に、東京DMATは、東京都各地域に密着した活動を継続して、今後も様々な取り組みを行い、全力で東京都・都民の安全・安心に寄与していくこと、東京DMATが更に発展するよう、東京都としてしっかりサポートすることを誓い、シンポジウムは閉会しました。

シンポジウムの発表内容等については、福祉保健局hp「救急の日シンポジウム議事録」(<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryu/kyuukyuu/kyukyunohi/26kyukyunohi.html>)をご覧ください。



基調講演



パネルディスカッション

☆ 東京DMAT創設10周年記念式典

救急の日シンポジウムに引き続き、都庁第一本庁舎のグリーンハウスにおいて、約60名が参加し、記念式典が行われました。初代東京DMAT計画運営検討委員会会長の辺見弘先生も出席され、参加者は東京DMATの10年間の歩みなど話が弾み、盛会のうちに幕を閉じました。



開式



歓談

◎ トピックス

☆ 平成26年度・東京都杉並区合同総合防災訓練

8月30日(土)、東京湾北部を震源とする非常に強い地震が発生し、杉並区において甚大な被害が発生したとの想定で総合防災訓練が行われました。東京DMATは、「医療救護活動訓練」「救出救助訓練」「救出救助活動拠点の設置運営訓練」に6チームが参加しました。



医療救護活動訓練① (東京消防庁ヘリによる搬送)



医療救護活動訓練② (民間ヘリによる搬送)



救出救助訓練① (救護所内活動)



救出救助訓練② (現場活動)



救出救助活動拠点の到着時の状況



活動拠点内の活動状況

☆ 平成26年度東京DMAT隊員養成研修

7月23日(水)と24日(木)の両日、東京DMAT隊員養成研修(座学)を東京都社会福祉保健医療研修センターで実施し、9月24日(水)と25日(木)の両日、実技を中心に東京消防庁第八消防方面本部訓練場で実施しました。今年度からNBC災害発生時の対応等を含め、2日間の研修となりましたが、115名の方が養成研修を終え、新たに隊員資格を取得しました。この結果、東京DMAT隊員総数は1,087名となりました。

また、養成研修に並行してインストラクター養成研修を実施し、24名のインストラクターが養成され、全ての東京DMAT指定病院にインストラクターを配置することができました。さらに、更新時研修(院外研修)も併せて実施し、37名の隊員が受講しました。

今後も充実かつ効果的な研修に努めたいと思いますので、インストラクターの皆さま、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。



簡易型防護服の装着訓練



多数傷病者発生事案野外シミュレーション

☆ 事務局からのお知らせ

東京DMAT通信は隊員皆さまと事務局のホットラインです。実活動や訓練での経験談・各病院における取組み・事務局への要望など、皆様からのご意見をお待ちしております。

次回発行は平成27年3月の予定です。来年度からは年3回程度を目処に、必要の都度発行していきます。

発行年月日

平成26年12月25日

発行

東京都福祉保健局医療政策部救急災害医療課災害医療係

東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

電話 03-5320-4445(直通)

FAX 03-5388-1441

メールアドレス S0000299@section.metro.tokyo.jp